

沼田市ぶどう組合

旬のブドウを楽しんで!

沼田市ぶどう組合は8月28日、沼田市秋塚町のゆたかぶどう園(齋藤豊園主)で開園式を開き、来賓や関係者、利根実業高校の生徒ら合わせて60人が参加しました。大河原武一郎組合長の挨拶の後、参加者はブドウジュースで乾杯し、ブドウ狩りを楽しみました。

同組合では、「巨峰」をはじめ「藤稔」「ピオーネ」「シャインマスカット」など約20品種を栽培しています。今年は昼夜の寒暖差が大きかったため、甘くておいしいブドウができていたとのこと。同組合の観光ブドウ園は8月中旬より順次オープンします。ブドウ狩りは9月上旬からピークを迎え、園や品種によっては10月下旬頃まで楽しめます。



ブドウの木の下で乾杯



収穫したブドウを手にする生徒たち

JA群馬青年部大会

青年の主張で松村さんが優秀賞

8月27日、前橋市のJAビルで令和8年度JA群馬青年部大会が開かれました。将来に向けての希望や意見等を発表する「青年の主張」には、JA利根沼田青年部から白沢支部の松村正浩さんが出場しました。松村さんは、就農し今まで支えてくれた方々への「感謝」について主張を行い、優秀賞を受賞しました。



発表する松村さん

ファミリーマートJA利根沼田月夜野店

部会役員が地元農産物をPR

ファミリーマートJA利根沼田月夜野店産直部会は7月27日、苗場で行われた音楽祭閉幕に伴い、多くの方が来店するため、同部会の役員らが商品のPRと農産物売り場のサポートを行いました。当日は農産物の新鮮さや、加工品の魅力を直接来店者へ伝え、地元の農産物をPRする良い機会となりました。また、店頭では漬け物の素の試食販売も実施され、農産物の販売促進につながりました。



来店者の対応をする部会役員⑥

JA利根沼田×JA全農

段ボール低コスト化にむけ意見交換

8月3日、糸之瀬集荷所で、テープが不要なトウモロコシ出荷用段ボールについてのヒアリングが行われました。従来の段ボールに代わるものとして試験運用を行っており、全農の担当者らが生産者に使用感や感度等について質問しました。生産者の川端潔さんは「組み立てが簡単に出て良い。作業の時間も約30分短縮された」と話しました。



意見を交わす生産者と担当者

JR東日本群馬事業本部×JA利根沼田×昭和村

JR社員が農業支援

JR東日本群馬事業本部は7月30日、昭和村の金子洋一さんの圃場で副業制度を活用した「援農プログラム」を開催しました。JR社員10名が参加し、トウモロコシの収穫から箱詰め、選別までの作業を行いました。援農プログラムにつきましては6ページにも掲載しておりますのでそちらもご覧ください。



金子さん⑥に作業を教わるJR職員